

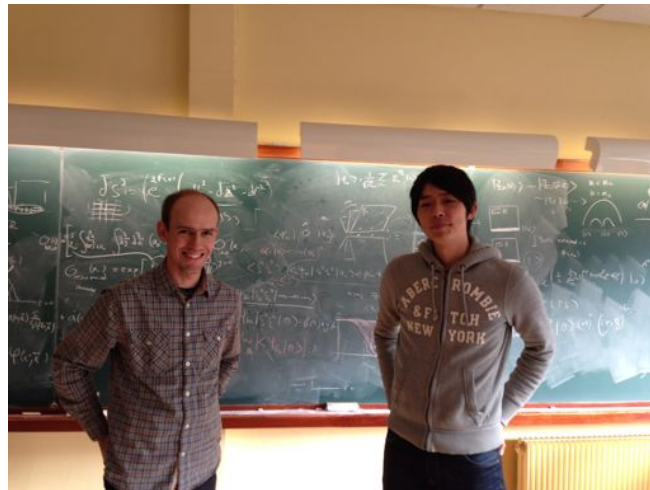
Saclay 滞在を終えて

物理学専攻 博士課程 2年 熊野裕太

2013年10月1日から11月30日にかけての2ヶ月間、フランスのサクレ原子力庁センター（CEA/Saclay）の理論物理学研究所（IPhT）にて **Researcher** の **Grégoire Misguich** 氏と、量子多体系におけるエンタングルメントについて共同研究を行った。

研究所の雰囲気は非常にオープンであり、ランチ後にコーヒールームにてディスカッションが行われる光景がしばしば見られた。実際、自分の研究もそこで進展したことが少なくなく、リラックスした雰囲気の中ディスカッションをすることの重要性を強く感じた。滞在中に当初は予期していなかった発見をすることができ、今回の **Saclay** 滞在は非常に有意義なものとなった。また今回の滞在中を通して、フランスで長期間滞在中の場合はフランス語を習得していた方がより滞在中を有意義にできるだろうと感じた。

最後に、このような貴重な機会を与えて頂いた **ALPS**、今回の滞在中で最もお世話になった受入先指導教官の **Grégoire Misguich** 氏、現地の研究者の方々、そしてホストファミリーの方々に感謝したい。



IPhT/CEA のコーヒールームにてディスカッション後に（左：Misguich 氏、右：筆者）